

感染症定期報告感染症別文献一覧表(2012/12/1~2013/3/31) 資料 3-1

ID	感染症 (PT)	出典	概要
1	B型肝炎	Hematology/oncology and stem cell therapy. 5(2012)54-59	エジプトにおけるサラセミア患者のB型肝炎(HBV)及びC型肝炎(HCV)の有病率に関する報告。エジプトMansoura大学小児病院のサラセミアケアセンターで定期的に輸血治療を受けているβサラセミア患者200例を対象に、前向き研究を行った。その結果、81例(40.5%)がELISA法でHCV抗体陽性、39例(19.5%)がRIBA法で抗HCV抗体陽性、58例(29.0%)がHBV表面抗原陽性、13例(6.5%)が抗HBc抗体陽性であった。HBVとHCVの高い有病率と関連する可能性のあるリスクファクターを検討したところ、年齢、輸血ユニットの数量、HBV表面抗原陽性と有意に関連していた。エジプト人サラセミア患者のコホートでは、HBV及びHCVの有病率が高く、診断の遅れや頻回輸血が感染の原因となっていることが示唆された。
2	C型肝炎	ProMED-mail 20121222.1465163	米国における注射針の使い回しによるC型肝炎感染の報告。メリーランド州において、ある医療従事者が多くの患者をC型肝炎に感染させたとして告発されている。検査によると、当該被疑者はC型肝炎に感染しており、自身に注射した後にそのシリンジを患者に使用したとされている。この事件に関わるC型肝炎症例の総数は4州において計44例にのぼる。
3	E型肝炎	Emerging infectious diseases. 18(2012)1274-1281	フランスのウサギから検出されたE型肝炎ウイルス(HEV)の報告。本研究では、フランスのウサギにおけるHEV保有率及びHEV株の遺伝的特性が検討された。飼育ウサギの胆汁試料の7%(14/200)及び野生ウサギの肝臓試料の23%(47/205)でHEVのRNAが検出された。全長ゲノム配列から、すべてのウサギHEV株は同一のクレードに属する(ヌクレオチド配列の72.2~78.2%がHEV遺伝子型1~4型と一致する。)ことが示された。また、ヒトHEV株と比較した結果、ウサギHEV株と近縁のヒトHEV株が同定された。当該ヒトHEV株及びすべてのウサギHEV株では、共通して、オープンリーディングフレーム1のX領域に93個のヌクレオチドが挿入されていた。さらに、ウサギからヒトへの人獣共通性のHEV伝播の可能性について検討されている。
4	E型肝炎	Hepatology. 56(2012) SUPPL1-1100A	フランスにおけるE型肝炎ウイルス(HEV)感染の報告。47歳肝移植患者は急性肝炎を発症し、E型肝炎と診断された。ウイルスの部分配列決定により、中国のウサギから分離された株と高い相同性が示された。患者の血清による子ブタ及びウサギの感染実験では、子ブタは感染せず、ウサギにおいてHEV RNAは検出されなかったものの、抗HEV抗体が一過性に検出された。患者は海外渡航しておらず、レストランでシェフとして働き、ウサギを含む複数の死亡動物と接触している。中国がフランスの食用新鮮ウサギ及び冷凍ウサギの最大のサプライヤーであることは注目に値する。また、免疫抑制によりウイルス感染が起こった可能性がある。
5	インフルエンザ	CCDR Weekly. Weeks 29&30, 2012	カナダにおけるインフルエンザ感染の報告。長期療養施設において3件の集団感染が報告されているものの、カナダ国内におけるインフルエンザの報告件数は少ない状態である。2012年7月15日から28日までの間に、16件の検体が検査され、81.2%がインフルエンザA型(H3:38.5%, H1:7.7%, サブタイプ不明:53.8%)、18.8%がインフルエンザB型であった。また、この2週間の間に6例の感染者が入院した。
6	インフルエンザ	CCDR Weekly. Weeks 31&32, 2012	カナダにおけるインフルエンザ感染の報告。2012年7月29日から8月11日までの間、カナダ国内におけるインフルエンザの報告件数は少ない状態であった。この間、9検体が検査され、77.8%がインフルエンザA型(H3:57.1%, サブタイプ不明:42.9%)、22.2%がインフルエンザB型であった。また、この2週間の間に9例の感染者が入院した。米国に関する情報として、2012年7月12日から8月9日までに、153例のA(H3N2)変異型の感染が確認されている。死亡例は確認されておらず、現時点でヒト-ヒト感染は認められていない。いずれの患者とも、農業フェアでブタと直接又は間接的な接触があった。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
7	インフルエンザ	CCDR Weeks 33&34	カナダにおけるインフルエンザ感染の報告。2012年8月12日から8月25日までの間、カナダ国内におけるインフルエンザの報告件数は少ない状態であった。この間、4検体が検査され、50.0%がインフルエンザA型(H3:1検体、(H1N1)pdm09:1検体)、50.0%がインフルエンザB型であった。また、この2週間の間にインフルエンザに関連した入院は報告されていない。一方、米国に関する情報として、2012年7月12日から8月23日までに、276例のA(H3N2)変異型の感染が確認されている。死亡例は確認されていない。ヒト-ヒト感染が疑われる事例が3件特定されているが、持続的なヒト-ヒト感染は認められていない。
8	インフルエンザ	CCDR Weeks 35&36	カナダにおけるインフルエンザ感染の報告。2012年8月26日から9月8日までの間、マニトバ州の長期療養施設において局所的な集団感染があった他、散発的又は局所的な感染流行が数か所で認められたものの、カナダ国内におけるインフルエンザの活動性は低い状態であった。この間、17のサンプルが検査され、82.4%がインフルエンザA型(H3:7サンプル、サブタイプ不明:7サンプル)、17.6%がインフルエンザB型であった。一方、米国に関する情報として、2012年7月12日から9月6日までに、296例のA(H3N2)変異型の感染が確認され、感染者1例の死亡が確認された。ヒト-ヒト感染が疑われる事例が3件特定されたが、持続的なヒト-ヒト感染は認められていない。また、インフルエンザA(H1N2)変異型(以下、H1N2v)感染が3例確認された。このH1N2vは、2009年のパンデミック時のインフルエンザA(H1N1)と同一のM遺伝子を保有していた。
9	インフルエンザ	CCDR Weeks 37&38	カナダにおけるインフルエンザ感染の報告。2012年9月9日から22日までの間、散発的なインフルエンザ感染の報告がわずかにあったものの、カナダ国内でのインフルエンザ感染の報告はほとんどなかった。インフルエンザA(H1N1)pdm09の報告が1件、インフルエンザAのサブタイプ不明の報告が4件あった。入院患者が1例あったことが報告されている。一方、米国に関する情報として、2012年7月12日から9月20日までの間に、305例のA(H3N2)変異型の感染が確認された。患者はブタとの接触の後に発症しており、持続的なヒト-ヒト感染は確認されていない。また、米国内ではA(H1N1)変異型(以下、H1N1v)の感染が1例確認された。このH1N1vは、2009年に流行したA(H1N1)pdm09のM遺伝子を保有していることがわかっている。
10	インフルエンザ	CDC FLUVIEW 2011-12 Influenza Season week29 ending July 21, 2012	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)感染の報告。2012年7月、インディアナ州で4例のH3N2v感染が確認された。4例とも重篤には至らず、入院を必要とせず回復している。このウイルスは、2011年7月から2012年4月までの間に米国内で計13例が報告されているウイルスと類似のウイルスである。アウトブレイクの規模の推定やヒト-ヒト感染の有無を明らかにするため、ヒト感染例の早期発見とその後の調査が必要となる。米国疾病予防管理センターは、追加の情報を随時、ウェブサイトから公表している。
11	インフルエンザ	CDC FLUVIEW 2011-12 Influenza Season week29 ending July 28, 2012	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)感染の報告。米国疾病予防管理センター(CDC)は、新たに12例のH3N2v感染が確認されたことを明らかにした。12例の州ごとの内訳は、ハワイ州1例、インディアナ州1例及びオハイオ州10例である。これまでにヒトからヒトへ感染した事例は確認されていないが、12例のいずれにおいても発症前にブタと密に接触していたことが確認されている。CDCは、追加の情報を随時、ウェブサイトから公表している。
12	インフルエンザ	CDC FLUVIEW 2011-2012 Influenza Season Week 31 ending August 4, 2012	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)感染の報告。米国疾病予防管理センターは、2012年8月9日時点で、H3N2v感染の患者数が153例にのぼることを発表した。現時点でヒトからヒトへの継続的な感染は確認されていないが、すべての患者において、発症前にブタとの接触があったことが確認されている。また、臨床的に、これらの症例は季節性インフルエンザと類似していた。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
13	インフルエンザ	CDC FLUVIEW 2011-2012 Influenza Season Week 31 ending August 11, 2012	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)感染の報告。米国疾病予防管理センター(CDC)は、2012年7月12日から8月16日までの間に、224例のH3N2v感染が確認されたことを明らかにした。このうち8例の感染者が入院しているが、全例が回復しており、死亡例は確認されていない。また、ヒトからヒトへの感染は現時点で確認されていない。CDCは、追加の情報をウェブサイトから公表している。
14	インフルエンザ	CDC FLUVIEW 2011-2012 Influenza Season Week 33 ending August 18, 2012	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)感染の報告。2012年7月12日から8月23日までの間に、全米10州において276例のH3N2v感染が確認された。そのうち13例が入院したが、死亡した感染者はいない。大部分の患者はブタへの曝露(接触)が感染の原因と考えられているが、ヒト-ヒト感染によりH3N2vに感染した疑いのある3例が確認されている。
15	インフルエンザ	CDC FLUVIEW 2011-2012 Influenza season Week 34 ending August 25, 2012	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)感染の報告。2012年7月12日から8月30日までの間に、全米10州において288例のH3N2v感染が確認された。そのうち15例が入院し、感染者1例の死亡が確認されている。大部分の患者はブタへの曝露(接触)が感染の原因と考えられているが、ヒト-ヒト感染によりH3N2vに感染した疑いのある3件の事例が特定されている。関係当局は、当該事例の詳細について引き続き調査を進めている。
16	インフルエンザ	CDC FLUVIEW 2011-2012 Influenza Season Week 35 ending September 1, 2012	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)感染の報告。2012年7月12日から9月6日までの間に、全米10州において296例のH3N2v感染が確認された。そのうち16例が入院し、1例の死亡が確認された。大部分の患者はブタとの接触が感染の原因と考えられている。ヒト-ヒト感染が疑われる事例が特定されているが、継続的なヒト-ヒト感染は確認されていない。
17	インフルエンザ	CDC FLUVIEW 2011-2012 Influenza Season Week 36 ending September 8, 2012	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)及びA(H1N2)変異型(以下、H1N2v)感染の報告。米国では、2012年7月12日から9月13日までの間に、305例のH3N2v感染が報告されており、そのうち16例が入院し、1例が死亡した。なお、持続的なヒト-ヒト感染は確認されていない。また、ミズーリ州において、インフルエンザA(H1N1)変異型(以下、H1N1v)の感染が1例確認された。この感染者は既に回復している。米国疾病予防管理センターによると、分離されたH1N1vは、2009年のパンデミック時のインフルエンザA(H1N1)と同一のM遺伝子を保有していた。
18	インフルエンザ	CDC FLUVIEW 2011-2012 Influenza Season Week 37 ending September 15, 2012	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)及びA(H1N2)変異型(以下、H1N2v)感染の報告。米国では、2012年7月12日から9月20日までの間に、305例のH3N2v感染が報告されている。大部分の感染者はブタとの接触が感染の原因と考えられている。ヒト-ヒト感染の可能性が高い事例が特定されているが、持続的なヒト-ヒト感染は確認されていない。また、H3N2vに関するサーベイランス強化の結果、1例のインフルエンザA(H1N1)変異型、3例のインフルエンザA(H1N2)変異型の感染が発見された。
19	インフルエンザ	CDC FLUVIEW 2011-2012 Influenza Season Week 38 ending September 22, 2012	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)等の感染の報告。疾病予防管理センターによると、2012年7月12日から10月4日までの間に、306例のH3N2v感染が報告されている。大部分の感染者はブタとの接触が感染の原因と考えられている。ヒト-ヒト感染が疑われる事例が特定されたが、持続的なヒト-ヒト感染は確認されていない。また、H3N2vに関するサーベイランス強化の結果、1例のインフルエンザA(H1N1)変異型、3例のインフルエンザA(H1N2)変異型の感染が発見された。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
20	インフルエンザ	CDC FLUVIEW 2011-2012 Influenza Season Week 39 ending September 29, 2012	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)等の感染の報告。疾病予防管理センターによると、2012年7月12日から10月4日までの間に、306例のH3N2v感染が報告されている。大部分の感染者はブタとの接触が感染の原因と考えられている。ヒト-ヒト感染が疑われる事例が特定されたが、持続的なヒト-ヒト感染は確認されていない。また、H3N2vに関するサーベイランス強化の結果、1例のインフルエンザA(H1N1)変異型、3例のインフルエンザA(H1N2)変異型の感染が発見された。
21	インフルエンザ	CDC Situation Summary, Information on influenza A (H3N2) variant viruses	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)に関する報告。2009年に流行したA(H1N1)pdm09ウイルスのM遺伝子を保有するH3N2vへの感染例は、2011年8月から12月までに12例が確認されている。このM遺伝子を保有することで、他の変異型ウイルスに比較して、このH3N2vはヒトへ感染しやすくなったのではないかと考えられている。また、2012年7月以降、同様にM遺伝子を保有するH3N2vの感染例が多数報告されており、米国疾病予防管理センターの2012年8月20日時点の集計によると、全米で計225例にのぼることが明らかとなっている。
22	インフルエンザ	CIDRAP News. Aug 10, 2012	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)感染の報告。米国疾病予防管理センター(CDC)は、2012年8月10日、2012年7月以降のH3N2v感染の患者数が153例にのぼることを明らかにした。大部分の患者は発症前にブタと接触していたか、ブタと近い環境にあったことが確認されている。さらに、CDCは、衛生試験所を対象にCDC Flu rRT-PCR Dx Panelの結果の解釈に関する最新情報を提供した。CDCは7種類のRIDT (rapid influenza diagnostic tests)を用いて診断精度を評価した結果、H3N2vを検出できたのは4種類のRIDTのみであった。医療従事者はH3N2vの検出感度が様々であり、陰性の結果でもH3N2vに感染している可能性を考慮するべきと注意を促した。
23	インフルエンザ	HPS Weekly Report. Volume 46, No. 2012/37	米国におけるインフルエンザA(H1N2)変異型(以下、H1N2v)感染の報告。ミネソタ州保健当局により、H1N2v感染症例3例が報告された。これらの患者は農業フェア会場でブタとの長時間の接触があった。疾病予防管理センターによると、このウイルスは、インフルエンザ(H1N1)2009パンデミックウイルスのM遺伝子を保有していた。また、このH1N1vのヘマグルチニン遺伝子は季節性インフルエンザのそれとよく似ており、既にヒト集団内に免疫がある可能性が示唆された。米国農務省のブタインフルエンザ・サーベイランス・プログラムによると、2010年以降、ミネソタ州を含む多くの州において、M遺伝子を有し、かつ、本ウイルスとよく似たH1N2がブタから見つかった。
24	インフルエンザ	HPS Monthly National Influenza Report(Week ending 12 August 2012-week 32)	スコットランドにおけるインフルエンザの発生状況に関する報告。スコットランド健康保護局は、2012年8月12日、過去4週間においてインフルエンザ様症状の件数は非流行期と同じ程度に低い状態であり、インフルエンザと確定された報告は少なく、集団感染も確認されていないことを明らかにした。一方、スコットランド以外の情報として、米国においてインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)が流行しており、2012年8月12日までの間に154例のH3N2v感染が確認されている。
25	インフルエンザ	HPS Weekly Report August 22, 2012	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)に関して、欧州疾病予防管理センター(ECDC)がリスク評価を更新したことの報告。ECDCによると、EU/EEA加盟国において、ブタ由来のH3N2vはブタ又はヒトにおいて確認されておらず、感染の報告もなされていない。しかし、ヒトからヒトへの感染事例が増えた場合や米国の農業展示会に参加した旅行者が感染した場合には、欧州でも重大な事態に発展する可能性がある。ECDC及びCommunity Network of Reference Laboratoriesは、H3N2vに関する検査体制強化に向けた取組みを開始した。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
26	インフルエンザ	HPS Weekly Report September 12, 2012	米国におけるインフルエンザA(H1N2)変異型(以下、H1N2v)感染の報告。ミネソタ州保健当局により、3例のH1N2v感染が報告された。このウイルスは、インフルエンザ(H1N1)2009/パンデミックウイルスのM遺伝子を保有していた。これらの患者は農業フェア会場でブタとの長時間の接触があった。このH1N2vウイルスは、2012年7月以降に米国内で流行しているインフルエンザA(H3N2)変異型ウイルスとは別のウイルスである。
27	インフルエンザ	HPS Monthly National Influenza Report(Week ending 9 September 2012- week 36)	スコットランドにおけるインフルエンザの発生状況に関する報告。スコットランド健康保護局は、2012年9月6日、過去4週間においてインフルエンザ様症状の件数は非流行期と同じ程度に低い状態であり、検査の結果インフルエンザと確定された検体は4検体(3検体がB型、1検体はサブタイプ不明のA型)と少ないことを明らかにした。一方、スコットランド以外の情報として、米国においてインフルエンザA(H3N2)変異型が流行していること、また、インフルエンザA(H1N2)変異型の感染3例が報告されていることを明らかにした。このA(H1N2)変異型ウイルスは、2009年に流行したインフルエンザ(H1N1)pdm09のM遺伝子を保有していた。
28	インフルエンザ	HPS National Influenza Report (Week ending 7 October 2012- week 40)	スコットランドにおけるインフルエンザ感染の発生状況に関する報告。スコットランド健康保護局は、2012年10月7日、域内のインフルエンザ感染の報告は少なく、例年のレベルと変わらない状態であることを発表した。一方で、ライノウイルスの報告は前年同時期の数値よりもやや高いことを明らかにした。一方、米国における情報として、A(H3N2)変異型の感染が307例、A(H1N2)変異型の感染が3例確認されたことが報告されている。
29	インフルエンザ	http://www.cdc.gov/flu/weekly/weeklyarchives2011-2012/weekly36.htm	米国におけるインフルエンザA(H1N1)変異型(以下、H1N1v)感染の報告。米国疾病予防管理センター(CDC)は、インフルエンザA(H3N2)変異型の国内での流行を受けて強化されたサーベイランスの結果、ミズーリ州において1例のH1N1v感染が確認されたと発表した。患者は発症前にブタとの接触があり、既に入院することなく回復している。また、CDCは、今回検出されたH1N1vが、2009年に流行したインフルエンザA(H1N1)pmd09と同じM遺伝子を保有することを明らかにした。
30	インフルエンザ	http://www.cdc.gov/flu/weekly/weeklyarchives2012-2013/weekly49.htm	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)感染等の発生状況に関する報告。米国疾病予防管理センターは、ミネソタ州においてH3N2v感染が新たに1例確認されたことを明らかにした。2012年7月以降、米国内における変異型インフルエンザ感染は11州で計312例(H3N2v感染308例、H2N1v感染3例、H1N1v感染1例)となった。
31	インフルエンザ	http://www.cdc.gov/flu/spotlights/h3n2v_us_cases.htm	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)感染の報告。米国疾病予防管理センターは、2012年8月3日、過去1週間に新たに12例のH3N2v感染が確認されたことを明らかにした。12例の州ごとの内訳は、ハワイ州1例、インディアナ州1例及びオハイオ州10例である。また、12例のいずれにおいても発症前にブタと密に接触していたことが確認されている。今回のH3N2vウイルスは、2009年に流行した(H1N1)pdm09ウイルスのM遺伝子を保有していることが確認されている。
32	インフルエンザ	http://www.cdc.gov/flu/spotlights/more-h3n2v-cases-reported.htm	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)感染の報告。米国疾病予防管理センター(CDC)は、2012年7月12日から8月16日までの間に、224例のH3N2v感染が確認されたことを明らかにした。CDCの担当者によると、ヒトからヒトへの感染は現時点で確認されておらず、また、観察される臨床症状は例年の季節性インフルエンザによく似たものである。今回のH3N2vは、2009年に流行したA(H1N1)pdm09ウイルスのM遺伝子を保有していた。同じM遺伝子は、2010年にブタから、2011年にヒトから得られたウイルスでも確認されている。M遺伝子によりヒトへの感染が容易になるのではないかと仮説もあり、CDCは今回の流行に注目している。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
33	インフルエンザ	http://www.who.influenza/surveillance_monitoring/updates/2012_09_14_surveillance_update_168.pdf	世界各国におけるインフルエンザの発生状況に関する報告。北半球の温帯地域のほとんどの国では、季節性インフルエンザはまだ検出されていない。米国ではインフルエンザA(H3N2)変異型の感染が増加し続けており、さらに3例のインフルエンザA(H1N2)変異型の感染も確認されているが、持続的なヒト-ヒト感染は確認されていない。熱帯地域における感染は減少傾向にあるが、例外的に、ニカラグアにおいてインフルエンザB感染が、インド及びタイにおいてインフルエンザB及びA(H1N1)pdm09感染が確認されている。南半球の温帯地域であるチリ、ニュージーランド、パラグアイ及び南アフリカにおいてインフルエンザ感染は少なく、特に、アルゼンチンからの報告は例年に比べて少ない状態が続いている。
34	インフルエンザ	http://www.who.int/influenza/gisrs_laboratory/updates/summaryreport/en/index.html	世界各国におけるインフルエンザの発生状況に関する報告。欧州ではインフルエンザ感染の報告は少ないが、米国ではインフルエンザA(H3N2)変異型の感染が増加し続けており、2012年8月23日の時点で276例が報告されている。南米におけるインフルエンザ感染の報告は少ないが、チリにおいてA(H3N2)の報告が続いており、その他の地域でも(H1N1)pdm09及びBが散発的にわずかに報告されている。アジアでは、中国南部においてA(H3N2)の感染が多く報告されており、中国の他の地域からもA(H1N1)pdm09、A(H3N2)及びBの散発的な報告が続いている。
35	インフルエンザ	http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/Influenza_Summary_IRA_HA_interface_10August12.pdf	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)感染の報告。米国政府は、2012年8月10日時点で、H3N2v感染の患者数が154例にのぼることを発表した。大部分の患者は、農業フェアでブタと直接又は間接的な曝露(接触)をもった子どもたちであった。また、臨床的に、これらの症例は季節性インフルエンザと類似していた。
36	インフルエンザ	http://www.who.int/influenza/surveillance_monitoring/updates/2012_10_12_surveillance_update_170.pdf	世界各国におけるインフルエンザの発生状況に関する報告。WHOによると、北半球の温帯地域では季節性のインフルエンザの伝播はまだ探知されておらず、熱帯地域のほとんどの国においてインフルエンザ感染の報告は少ないか減少傾向にある。ただし例外として、コスタリカ及びニカラグアではA(H3N2)及びBへの感染の報告がある。また、サハラ以南のアフリカでは、カメルーンでインフルエンザの検出数が増加したと報告されている。南半球の温帯地域ではインフルエンザのシーズンは終息しつつある。また、米国ではインフルエンザA(H3N2)変異型の新たな感染例が報告されているが、持続的なヒト-ヒト感染は確認されていない。
37	インフルエンザ	IDWR. 2012年第30週	世界各国におけるインフルエンザの発生状況に関する報告。北半球の温帯地域のほとんどの国では、季節性インフルエンザは流行のシーズンではない。熱帯地域においてはブラジル、キューバ、エクアドル等の南米でA(H1N1)pdm09の報告が、マダガスカル等のアフリカでA(H3N2)の報告が、中国南部及びベトナムでA(H3N2)の報告が、シンガポールでA(H3N2)、A(H1N1)pdm09及びBの報告が目立っている。南半球の温帯地域では流行のシーズンが続いているが、チリ及び南アフリカでは報告件数の減少が認められ、流行のピークに達したと考えられている。
38	インフルエンザ	IDWR. 2012年第31週	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)感染の発生状況に関する報告。米国疾病予防管理センターは、2012年8月10日、154例のH3N2v感染が確認されていることを発表した。インディアナ州(120例)及びオハイオ州(30例)での感染者が多い。H3N2vに感染したブタと直接接触したことが主な感染原因と考えられており、現時点でヒトからヒトへの持続的な感染は確認されていない。H3N2vに感染した場合の重症度は季節性インフルエンザと同じ程度であり、感染者は数日のうちに自然に回復する。少数の血清学的な調査によれば、成人は既に免疫を持っている可能性があるものの、小児には免疫がないと考えられている。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
39	インフルエンザ	IDWR 2012年第32週	世界各国におけるインフルエンザの発生状況に関する報告。北半球の温帯地域のほとんどの国では、季節性インフルエンザは流行のシーズンではない。ただし、米国ではインフルエンザA(H3N2)変異型の感染が報告され続けている。これらの患者は発症前にブタとの接触歴があり、ヒトからヒトへの感染は確認されていない。熱帯域においてはアメリカ大陸のブラジル、キューバ、エクアドル(A(H1N1)pdm09、A(H3N2)及びB)、サハラ以南のアフリカ大陸のガーナ、マダガスカル(A(H3N2)及びB)、アジアのバングラデシュ、中国南部、インド、シンガポール、ベトナム(A(H3N2)及びB)でインフルエンザの著しい活動性が確認されている。南半球の温帯地域ではインフルエンザの活動性は減少しており、オーストラリア、チリ、パラグアイ及び南アフリカでは報告が減少し続けている。なお、アルゼンチンからの報告は例年に比べて少ない状態が続いている。
40	インフルエンザ	IDWR 2012年第34週	世界各国におけるインフルエンザの発生状況に関する報告。北半球の温帯地域のほとんどの国では、季節性インフルエンザは流行のシーズンではない。ただし、米国ではインフルエンザA(H3N2)変異型の感染が報告され続けているが、これまでにヒトからヒトへの感染は確認されていない。熱帯域においては、アメリカ大陸のブラジル、キューバ、エクアドル(A(H1N1)pdm09、A(H3N2)及びB)、サハラ以南のアフリカ大陸のガーナ、マダガスカル(A(H3N2)及びB)、アジアのバングラデシュ、中国南部、インド、シンガポール、ベトナム(A(H3N2)及びB)でインフルエンザの著しい活動性が確認されている。南半球の温帯地域ではインフルエンザの活動性は減少しており、オーストラリア、チリ、パラグアイ及び南アフリカでは報告が減少し続けている。なお、アルゼンチンからの報告は例年に比べて少ない状態が続いている。
41	インフルエンザ	IDWR 2012年第36週	世界各国におけるインフルエンザの発生状況に関する報告。北半球の温帯地域のほとんどの国では、季節性インフルエンザはまだ検出されていない。米国ではインフルエンザA(H3N2)変異型の感染が増加し続けており、さらに3例のインフルエンザA(H1N2)変異型の感染も確認されたが、持続的なヒト-ヒト感染は確認されていない。熱帯域における感染は減少傾向にあるが、例外的に、ニカラグアにおいてインフルエンザB感染が、インド及びタイにおいてインフルエンザB及びA(H1N1)pdm09感染の報告が続いている。南半球の温帯地域であるチリ、ニュージーランド、パラグアイ及び南アフリカにおいてインフルエンザ感染の報告は減っており、特に、アルゼンチンからの報告は例年に比べて少ない状態が続いている。
42	インフルエンザ	IDWR 2012年第38週	世界各国におけるインフルエンザの発生状況等に関する報告。北半球の温帯地域ではインフルエンザの活動性は低く、流行のシーズンではない。熱帯域のほとんどの国では、インフルエンザの報告は減少傾向にある。ただし、米国では、新たに数名のインフルエンザA(H3N2)変異型の感染が報告され、さらにA(H1N1)変異型の感染が1例、A(H1N2)変異型の感染が3例で報告されている。また、南半球の温帯地域のほとんどの国では、インフルエンザの活動性は低下しており、オーストラリア、チリ、ニュージーランド、パラグアイ及び南アフリカでは、インフルエンザの指標の減少が報告されている。WHOは、技術的協議の結果、2013年のインフルエンザシーズンに南半球で使用するワクチン株に関する推奨を行った。
43	インフルエンザ	IDWR 2012年第40週	世界各国におけるインフルエンザの発生状況に関する報告。WHOによると、北半球の温帯地域では季節性のインフルエンザの伝播はまだ探知されておらず、熱帯域のほとんどの国においてインフルエンザ感染の報告は少ないか減少傾向にある。ただし例外として、コスタリカ及びニカラグアではA(H3N2)及びBへの感染の報告が続いている。また、サハラ以南のアフリカでは、カメルーンでインフルエンザの報告数が増加した。南半球の温帯地域ではインフルエンザのシーズンは終息しつつある。また、米国ではインフルエンザA(H3N2)変異型の新たな感染例が報告されているが、持続的なヒト-ヒト感染は確認されていない。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
44	インフルエンザ	Journal of Virology. 86(2012)9533	中国南部で発見されたブタ由来のインフルエンザA(H3N2)ウイルスの遺伝子配列に関する報告。2011年12月、中国南部のGuangdong地域で発生した重篤な呼吸器疾患のアウトブレイクと関連して、ブタ農場からトリ様のH3N2ウイルスが発見された。RT-PCRの結果、このウイルス株は、HA遺伝子及びNA遺伝子にA/white-backed munia/Hong Kong/4519/2009(H3N2)と高い相同性を有し、M遺伝子はH5N1高病原性トリインフルエンザウイルスと系統的に似ていた。本報告は、中国南部でH5N1高病原性トリインフルエンザウイルスセグメントを含む、ブタのH3N2ウイルスの最初の報告である。過去10年で、多くのインフルエンザ株が中国南部で出現し、報告されている。この地域が新規のインフルエンザウイルスの出現に重要であることは確かである。
45	インフルエンザ	Journal of Virology. 86(2012)9542	中国における新規のインフルエンザAウイルスの発見の報告。中国南部においてH5N1鳥インフルエンザウイルスを含むブタインフルエンザウイルスが新たに発見された。分離されたウイルスのサブタイプは(H4N8)であると同定され、さらに、このウイルスのHA遺伝子はA/Avian/Japan/8K10185/2008(H4N6)と高い相同性を示し、かつ、NA遺伝子はA/chicken/Guangxi/2117/2010(H3N8)と高い相同性を示すことが明らかとされた。同地域は、新しいA型インフルエンザウイルスの発生に重要であることが考えられる。
46	インフルエンザ	Journal of Virology. 86(2012)13865-13866	中国においてブタから分離されたH10N5鳥インフルエンザウイルスに関する報告。鳥類のH10N5インフルエンザウイルスが中国湖北省のブタから分離され、A/swine/Hubei/10/2008/H10N5(SW/HB/10)と命名された。8つの遺伝子部について相同性及び系統解析を実施したところ、本株が鳥由来であり、ユーラシア系統の鳥インフルエンザウイルスに相同性が高いことが判明した。これは、自然状況下のブタに鳥類のH10N5インフルエンザウイルスが異種間伝播した最初の報告である。また、本株はHA蛋白の切断部位にアミノ酸配列IIQCGR/GLFを含んでおり、このウイルスが低病原性である可能性を示唆している。
47	インフルエンザ	MMWR. 61(2012)764-767	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)感染の報告。2012年7月以降、米国内のH3N2v感染例は305例となった。オハイオ州では7月28日から9月25日までに計106例のH3N2v感染が確認され、うち11名の患者が入院を要した。入院患者のうち6例については、年齢や合併症等の観点からリスクの高いと判断された。この報告では、入院患者11例の臨床経過の概要等がまとめられている。
48	インフルエンザ	MMWR. 61(2012)785-789	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)感染の報告。2012年7月にインディアナ州でH3N2vの感染者がはじめて確認され、その後、7月12日から9月28日までの間に、10州において306例のH3N2v感染症例が報告された。306例のうち、245例(80%)がインディアナ州とオハイオ州で発現している。16症例が入院し、1症例が死亡した。症例の多くはブタとの接触があったことが報告されており、ブタから同定されたインフルエンザA(H3N2)ウイルスは、ヒトから検出されたH3N2vウイルスと遺伝的に類似していた。少数ではあるがヒトからヒトへの感染が疑われる事例が特定されているが、ヒトからヒトへの持続的な伝播は確認されていない。患者年齢の中央値は6歳で、全症例の93%(284例)が18歳以下であった。また、3例のインフルエンザA(H1N2)変異型ウイルス感染と、1例のインフルエンザA(H1N1)変異型ウイルス感染が報告されている。これら4例では発症1週以内にブタとの接触があったことが報告されている。
49	インフルエンザ	MMWR. 62(2012)124-130	米国におけるインフルエンザの発生状況に関する報告。米国疾病予防管理センターは、今シーズンのインフルエンザの発生状況に関する調査結果を公表した。今シーズンの感染者数は2012年11月中旬に増加しはじめ、2013年2月においても例年より高い状態のままである。2012年9月30日から2013年2月9日までに、203,706検体が検査され、55,470検体が陽性であった。そのうち、79%がインフルエンザA型、21%がインフルエンザB型であった。インフルエンザA型のうち、29,914サンプルでサブタイプが決定され、97%がH3N2型、3%がpH1N1型であった。入院リスクの最も高い年齢層は「65歳以上」であり、入院患者の半分以上が「65歳以上」の患者であった。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
50	インフルエンザ	ProMED-mail 20120725.1214922	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)感染の報告。2012年7月、インディアナ州で開催された農業フェアの参加者のうち4例において呼吸器疾患が確認された。いずれも入院を必要とせずに回復している。4名はブタの展示に関わるか又はその家族であり、ブタと接触していた。また、4例の検体及びブタから採取されたサンプルのすべてにおいてH3N2vウイルスが検出された。動物に触れた際は必ず石鹸で手を洗うこと、動物のいるエリアでは飲食をしないこと、さらに、高齢者や小児、妊産婦等は動物の周りでは特に注意することが重要である。
51	インフルエンザ	ProMED-mail 20120726.1216502	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)感染の報告。2012年7月、インディアナ州で開催された農業フェアの参加者のうち4例において呼吸器疾患が確認された。いずれも入院を必要とせずに回復している。4名はブタの展示に関わるか又はその家族であり、ブタと接触していた。また、4例の検体すべてにおいてH3N2vウイルスが確認された。米国疾病予防管理センターの解析の結果、今回のH3N2vは、2009年に流行したH1N1パンデミックウイルスのM遺伝子を有していた。
52	インフルエンザ	ProMED-mail 20120802.1225864	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)感染の報告。ハワイ州保健当局は、2012年7月30日、マウイ島でブタと接触する作業に従事する住民1例においてH3N2v感染を確認したことを発表した。保健当局担当者は、ブタと接触する作業に従事する人に対し、インフルエンザ様の症状が認められた時には医師に相談するよう呼びかけた。また、適切に調理されたブタ肉を食べても感染のおそれはないことが強調された。
53	インフルエンザ	ProMED-mail 20120803.1227435	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)感染の報告。オハイオ州当局は、州内で開催された農業フェアに参加した10例がインフルエンザ様の症状を呈しており、予備的な検査の結果、H3N2v感染の可能性があることを明らかにした。咳、喉の痛み、発熱などの症状が現れたが、10例とも回復しつつある。現在、米国疾病予防管理センターが調査を進めている。
54	インフルエンザ	ProMED-mail 20120803.1227741	世界各国におけるインフルエンザの発生状況に関する報告。北半球の温帯地域のほとんどの国では、季節性インフルエンザは監視スケジュールから外れた。熱帯地域においてはブラジル、キューバ、エクアドル等の南米でA(H1N1)pdm09の報告が、マダガスカル等のアフリカでA(H3N2)の報告が、中国南部及びベトナムでA(H3N2)の報告が、シンガポールでA(H3N2)、A(H1N1)pdm09及びBの報告が目立っている。南半球の温帯地域では流行のシーズンが続いているが、チリ及び南アフリカでは報告件数の減少が認められ、流行のピークは越えたと考えられている。
55	インフルエンザ	ProMED-mail 20120805.1228593	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)感染の報告。米国疾病予防管理センター(CDC)は、新たに12例(ハワイ州1例、オハイオ州10例、インディアナ州1例)のH3N2v感染が確認されたことを発表した。これで2011年7月以降のH3N2v感染者は計29例となった。今回のH3N2vウイルスは、2009年に流行したA(H1N1)pdm09ウイルスのM遺伝子を保有していた。CDCは市民に対し、ブタと接触する際は手を洗うことや、病気が疑われるブタとの接触を避けることなどの予防措置を講ずるよう呼びかけている。
56	インフルエンザ	ProMED-mail 20120807.1232623	米国におけるブタのインフルエンザ感染に係る措置の報告。オハイオ州の農業フェアにおいて、インフルエンザ感染の疑いのあるブタ2頭が発見され、元の農場へ送り返された。オハイオ州南部の農業フェアにおけるインフルエンザのアウトブレイクを受け、州の農務当局はColumbusの農業フェアを監視していた。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
57	インフルエンザ	ProMED-mail 20120811.1239668	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)感染の報告。米国政府は、2012年7月12日から8月9日までに、153例のH3N2v感染が確認されたことを明らかにした。情報が入手可能であった138例の感染者うち、128例(93%)が18歳未満であり、10例(7%)が成人であった。2例が入院したが、死亡例は認められていない。また、8月7日、米国疾病予防管理センター(CDC)は、衛生試験所を対象にCDC Flu rRT-PCR Dx Panelの結果の解釈に関する最新情報を発表した。実臨床ではH3N2vの検出にRIDTが使用されていることから、CDCはH3N2vの7種類のRIDT(Rapid influenza diagnostic tests)の診断精度を評価した。その結果、H3N2vを検出できたのは4種類のRIDTのみであった(Directigen、Sofia、Veritor、Xpect)。医療従事者はRIDTのH3N2vの検出感度が様々であり、RIDT陰性でもH3N2vに感染していないと考えるべきではないと注意を促した。
58	インフルエンザ	ProMED-mail 20120817.1249415	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)感染の報告。米国政府は、2012年8月10日までに、H3N2v感染の患者数が154例にもぼることを発表した。大部分の患者は、農業フェアでブタと直接又は間接的に接触した小児であった。H3N2vに感染した場合の重症度は季節性インフルエンザと同じ程度であり、感染者は数日のうちに自然に回復する。少数の血清学的な調査によれば、成人は既に免疫を持っている可能性があるものの、小児には免疫がないと考えられている。
59	インフルエンザ	ProMED-mail 20120818.1250752	世界各国におけるインフルエンザの発生状況に関する報告。北半球の温帯地域のほとんどの国では、季節性インフルエンザは監視のスケジュールから外れた。米国においてはA(H3N2)変異型の感染が続いており、それらの感染ではブタとの接触が関連付けられている。熱帯地域においてはブラジル、キューバ、エクアドル等の南米でA(H1N1)pdm09の報告が、マダガスカル等のアフリカでA(H3N2)の報告が、中国南部及びベトナムでA(H3N2)の報告が、シンガポールでA(H3N2)、A(H1N1)pdm09及びBの報告が目立っている。ニュージーランドでは報告数の増加が認められるものの、南半球の温帯地域のほとんどの国では報告件数が減り続けている。
60	インフルエンザ	ProMED-mail 20120819.1251848	健康に見えるブタでもインフルエンザウイルスに感染していることがあるとの報告。2009年のミネソタ州の農業フェアで展示されたブタの20%がインフルエンザの検査で陽性反応を示し、サウスダコタ州の農業フェアのブタにおいても陽性反応が確認された。これらのブタの鼻スワブは農業フェア会場に到着から24時間以内に採取されたものであり、会場に到着する以前に感染していた可能性が示唆される。今回の結果は、インフルエンザに感染したブタの9割近くで感染の兆候が確認できないと報告した2011年のカナダの研究と一致する。
61	インフルエンザ	ProMED-mail 20120819.1251882	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)ウイルス感染の報告。ペンシルバニア州の保健当局は、ブタに由来するH3N2v感染の確定例4例及び疑い例6例が報告されたことを発表した。いずれの患者も農業フェアに参加した若年者であり、ヒト-ヒト感染を示す証拠はない。
62	インフルエンザ	ProMED-mail 20120820.1252968	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)感染の報告。ブタとの接触に関連したH3N2v感染は、メリーランド州、ペンシルバニア州及びウィスコンシン州で新たに確認された。これにより、全米9州で計230例のH3N2v感染が確認されたことになる。今回のH3N2vウイルスには、2009年に流行したインフルエンザA型(H1N1)ウイルスのM遺伝子の配列が含まれている。
63	インフルエンザ	ProMED-mail 20120821.1255415	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)感染に関する報告。2012年8月12日時点で、全米10州において、この1カ月以内に200例以上のH3N2v感染が報告されている。多くは若年者であり、かつ農業フェアへの参加者であった。これまでにヒト-ヒト感染は確認されていない。しかし、専門家の中には、ブタ小屋において飲食をしないことやブタ小屋を訪れた後に手を洗うことを呼びかけるだけの当局の対応を疑問視する意見がある。また、今年度はフェアにブタを参加させないよう措置を求めるべきと考える専門家もいる。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
64	インフルエンザ	ProMED-mail 20120826.1264634	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)感染の報告。米国当局の公衆衛生担当者は、ブタ由来のインフルエンザの感染が増え続けており、そのうち3例ではヒトからヒトへの感染が疑われることを明らかにした。また、2012年8月26日、疾病予防管理センター(CDC)の担当者は、H3N2v感染者が7月までの276例からさらに52例が加わったことを発表した。これまでのところ、全米10州で感染が認められているが、米国外では感染は認められていない。ミネソタ大学の専門家は感染を最小化するために農業フェアでのブタの展示会は差し控えるべきとの認識を示したが、CDCの担当者はブタ展示会を中止する必要はないとの認識を示した。
65	インフルエンザ	ProMED-mail 20120831.1275624	世界各国におけるインフルエンザの発生状況に関する報告。北半球の温帯地域のほとんどの国では、季節性インフルエンザは流行のシーズンではない。ただし、米国ではインフルエンザA(H3N2)変異型の感染が報告され続けている。これらの患者は発症前にブタとの接触歴があり、ヒトからヒトへの感染は確認されていない。熱帯地域においてはアメリカ大陸のブラジル、キューバ、エクアドル(A(H1N1)pdm09、A(H3N2)及びB)、サハラ以南のアフリカ大陸のガーナ、マダガスカル(A(H3N2)及びB)、アジアのバングラデシュ、中国南部、インド、シンガポール、ベトナム(A(H3N2)及びB)でインフルエンザの著しい活動性が確認されている。南半球の温帯地域ではインフルエンザの活動性は減少しており、オーストラリア、チリ、パラグアイ及び南アフリカでは報告が減少し続けている。なお、アルゼンチンからの報告は例年に比べて少ない状態が続いている。
66	インフルエンザ	ProMED-mail 20120831.1275553	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)感染の報告。ウィスコンシン州の保健当局は、2012年8月31日、H3N2v感染が州内で初めて確認されてから2週間経過した現在、14例のH3N2v感染が認められていることを発表した。いずれの患者もブタとの接触があり、回復に向かっている。臨床症状は季節性のインフルエンザと似ており、発熱、食欲不振、咳等が観察されている。
67	インフルエンザ	ProMED-mail 20120911.1290389	米国におけるインフルエンザA(H1N2)変異型(以下、H1N2v)感染の報告。ミネソタ州の農業フェアに関連して4症例目のH1N2v感染が確認された。10代の男性患者は、8月23日から26日までブタ小屋で去勢ブタを展示し、帰宅してから4日後に発症した。入院の必要はなかった。農業フェアに関連した4症例のすべてについて、発症前にブタ小屋で長時間を過ごしており、そのいずれもが早期に回復していた。4症例から分離されたウイルスは、8月に米国内で警戒されていたH3N2変異型ウイルスとは異なる。
68	インフルエンザ	ProMED-mail 20120917.1297468	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)及びインフルエンザA(H1N1)変異型(以下、H1N1v)感染の報告。米国疾病予防管理センター(CDC)は、ブタ由来のH3N2v感染が新たに9例発生し米国内で305例となること、また、ブタ由来のH1N1v感染がミズーリ州で1例発生していることを発表した。CDCによると、H3N2v感染の305例のほとんどが農業フェアでブタに曝露した患者であり、ヒト-ヒト感染と思われる少数の事例が認められるものの、ヒトにおける伝播の継続は認められていないとしている。H3N2v、H1N1v並びにミネソタ州で3例の感染が確認されているインフルエンザA(H1N2)変異型ウイルスのいずれとも、2009年に流行したインフルエンザA(H1N1)pdm09のM遺伝子を保有していた。
69	インフルエンザ	ProMED-mail 20120918.1299231	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)感染の報告。ミネソタ州保健当局は、新たに2例のH3N2v感染の発生を発表した。2例ともミネソタ州フェアのブタ小屋を9月2日に家族とともに訪れ、9月5日に発症しており、いずれも入院せず既に回復している。ミネソタ州では、今回の2例の他に、H3N2v感染4例及びインフルエンザA(H1N2)変異型の感染例が報告されている。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
70	インフルエンザ	ProMED-mail 20120923.1305983	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)感染の報告。米国疾病予防管理センター等による調査の結果、2011年中において、発見されていない多くのH3N2v感染例があったことが示唆された。2011年8月のペンシルベニア州のフェアに関連して、H3N2v感染の確定例3例、可能性例4例、疑い例82例が認められたものの、疑い例のほとんどは調査前に回復したためウイルスは確認されなかった。しかし、今回、4歳以下の疑い例6例のうち4例において、ウイルス抗体が陽性であったことが確認された。この結果から、疑い例の中にはH3N2v感染者が含まれていた可能性があることが示唆された。
71	インフルエンザ	ProMED-mail 20120926.1311060	カナダにおけるH1N1変異型ウイルス(以下、H1N1v)感染者に関する報告。ブタに関連する仕事に従事する男性1例においてH1N1vによる感染が見つかった。患者はカナダ及び米国でブタに関連する仕事に従事しているが、感染場所は不明であった。患者は入院し、その後回復している。また、患者の家族や友人で症状を呈するものはいない。このH1N1vは、今夏、米国でヒトへの感染が確認されたブタインフルエンザウイルスと同じく、パンデミックH1N1ウイルスのM遺伝子を有している。証明されてはいないが、M遺伝子を有することによりヒトへの感染性を獲得したのではないかと推測がある。
72	インフルエンザ	ProMED-mail 20120928.1314640	2012年9月28日時点で、北半球の温帯地域にあって報告を行ったすべての国でのインフルエンザの伝播はごくわずかであり、非流行期と同程度の水準であった。米国でインフルエンザA(H3N2)変異型の感染例が少数確認されているが、ヒト-ヒト感染は確認されていない。同じく米国では、インフルエンザA(H1N1)変異型の感染1症例、インフルエンザA(H1N2)変異型の感染3症例も認められており、いずれの感染例ともブタとの接触後に発症していた。
73	インフルエンザ	ProMED-mail 20121011.1337739	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(以下、H3N2v)及びインフルエンザA(H1N1)変異型(以下、H1N1v)感染の報告。米国政府は、H3N2v感染について、新たに数例の感染例が確認されたこと、並びに新たな死亡例はないことを発表した。ヒト-ヒト感染が疑われる事例が特定されているが、ヒト-ヒト感染が継続しているとの報告はない。また、2012年8月、米国で2例目(1例目は2011年)のH1N1v感染症例が確認された。患者は女性であり、入院することなく既に回復している。さらに、カナダにおいて、ブタと接触する職業に就く男性1例のH1N1v感染が確認された。米国及びカナダの感染者から得られたH1N1vは、ヒトの季節性インフルエンザウイルスとよく似たヘマグルチニンを有しており、ヒト集団内に既に免疫があることが示唆される。
74	インフルエンザ	ProMED-mail 20121026.1367194	米国のブタにおけるインフルエンザ感染の報告。オハイオ州立大学によると、2009年から2011年までに州内で開催された53の農業祭について、農業祭ごとに20頭ずつを検査したところ、12の農業祭において少なくとも1頭がインフルエンザ陽性であった。また、インフルエンザの陽性反応が確認されたブタの80%以上は臨床症状を示していなかった。2011年にブタから分離されたH3N2及びH1N2ウイルスは、2012年にヒトへの感染が確認されているH3N2変異型ウイルスと同様に、2009年に流行したH1N1vパンデミックウイルスの遺伝子を保有していた。さらに、2012年7月に報告されたヒト感染症例から得られたウイルスは、ブタから得られたウイルスとほぼ完全に一致していた。このことは、ヒトとブタの間に当該ウイルスの伝播を予防する生物学的バリアがほとんど存在しないことを示唆している。
75	インフルエンザ	WHO Influenza virus activity in the world (September 14, 2012)	世界各国におけるインフルエンザの発生状況に関する報告。2012年8月19日から9月1日までの間に、WHOのサーベイランスシステム(GISRS)で収集され、検査された検体は14,677以上にのぼり、そのうち1,870検体がインフルエンザウイルスに陽性であった。1,293検体(69.1%)はA型に、577検体(30.1%)はB型に分類され、A型に分類されたうち、171検体がA(H1N1)pdm09に、1,020検体がA(H3N2)に分類された。また、B型に分類されたうち、16検体(69.6%)がB-Yamagata系統であり、7検体(30.4%)がB-Victoria系統であった。一方、米国ではA(H3N2)変異型の感染が296例確認されており、そのうち16例が入院し、1例の死亡が確認されている。また、同国ミネソタ州においてA(H1N2)変異型の感染3例が確認されている。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
76	インフルエンザ	WHO WER 42(2012)401-412	米国におけるインフルエンザ感染の発生状況に関する報告。2012年7月以降、米国の複数の州で計305例のインフルエンザA(H3N2)変異型ウイルス(以下、H3N2v)のヒト感染が報告され、限定的なヒト-ヒト感染も確認された。これまでに見つかったH3N2vは、ノイラミニダーゼ阻害薬に感受性を有し、アダマンタンに対して耐性をもつ。また、2012年2月23日～9月18日の間、インフルエンザA(H1N1)変異型ウイルスの感染が1症例、インフルエンザA(H1N2)変異型ウイルスの感染が3症例確認された。両ウイルスとも、ノイラミニダーゼ阻害薬に感受性を有し、アダマンタンに対して耐性をもつ。
77	インフルエンザ	共同通信(2013年1月16日配信)	米国におけるインフルエンザ予防接種の呼びかけに関する報告。疾病予防管理センター(CDC)によると、47州においてインフルエンザの広範な流行がみられ、前週の41州から拡大している。これを受け、CDCは市民にワクチン接種を呼びかけた。また、生後6か月以上の国民は例外なくワクチンを接種すべきとし、幼児、妊婦のほか、ぜんそくや糖尿病などの既往歴を有する人及び65歳以上の高齢者は、特にワクチン接種が重要だと警告している。
78	鳥インフルエンザ	http://www.nhs.uk/news/2012/06june/Pages/mutated-h5N1-virus-avian-flu-bird-flu-spread-through-air.aspx	鳥インフルエンザA(H5N1)が哺乳動物の間で伝播することが実験により確認されたとの報告。英国NHSの報道によると、鳥インフルエンザA(H5N1)に遺伝子変異を導入することにより、フェレット同士での空気感染が可能となる事象がオランダの研究チームにより確認された。感染後に死亡した個体はなく、タミフルへの感受性やワクチンの事前投与による抗体の獲得があることが確認された。この研究により、鳥インフルエンザA(H5N1)が遺伝子変異の結果、ヒトからヒトへ感染しうる可能性が示唆されたとしている。
79	鳥インフルエンザ	ProMED-mail 20120622.1177785	鳥インフルエンザA(H5N1)の哺乳動物間での伝播に関する報告。オランダの研究グループにより、鳥インフルエンザA(H5N1)がフェレットへの感染後、遺伝子変異を経てフェレット同士で空気感染する可能性が示された。さらに別の報告では、飛沫感染性のインフルエンザA(H5N1)が哺乳動物において変異を生ずる可能性が示唆された。これらの報告をレビューした他の研究者らは、明確な根拠はないものとするも、哺乳動物の間での感染の可能性は否定できないとして、更なる研究が必要と判断している。
80	鳥インフルエンザ	ProMED-mail 20120801.1224334	米国におけるインフルエンザA(H3N8)に感染したゴマファアザラシの報告。ニューイングランド州において野生のゴマファアザラシの死体が162体発見され、その死因がインフルエンザA(H3N8)感染によるものと判明した。このウイルスは、2002年に水鳥で発見されたものが変異したウイルスである可能性があり、動物間で新たな感染が広がる可能性がある。
81	ウエストナイルウイルス	ProMED-mail 20120912.1293167	米国におけるウエストナイルウイルス(WNV)のアウトブレイクに関する報告。米国におけるWNVのヒト症例は増加しており、2012年9月11日現在、2636例(うち1405例が神経侵襲性疾患)が報告され、118例が死亡している。今回のアウトブレイクは、WNVが米国に出現した1999年以來で最大であり、もっとも深刻であるという。例年より大規模となったアウトブレイクの原因が検討されているが、1つの理論として、異常な暑さによりウイルス伝達が活発になったのではないかとしている。当局は、ウイルス伝達が鎮静化する秋までは蚊に刺されることを避けることを推奨している。なお、ヒト用のワクチンは実用化されていない。
82	日本脳炎	臨床とウイルス 40(2012)28	日本における日本脳炎ウイルス(JEV)の活動状況調査及びヒトの自然感染率調査の報告。2004年以降、熊本県において6例の日本脳炎患者が確認されており、3例からJEV遺伝子が検出されている。また、2005年以降、飼育ブタより34株のJEVが分離されている。2005年以降に熊本県で分離されたJEVはすべて遺伝子I型であり、越冬して活動する土着株の存在が示唆された。さらに、1～9歳のワクチン未接種の小児における中和抗体保有率から年間自然感染率を算定したところ、2.2%であった。これらにより、熊本県では遺伝子I型JEVの活動が活発な地域があり、今後患者発生のおそれがあることから、注意喚起と予防接種の継続が重要であると考えられた。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
83	エボラ出血熱	Scientific Reports. 2(2012)811	エボラウイルス(EBOV)の異種間でのウイルス伝播に関する報告。64週齢のランドレース種の子ブタにEBOV(Kikwit 95)を経口鼻接種し、4頭のカニクイザルがいる部屋にもどし、観察をした。なお、ブタとカニクイザルは隔てられており、直接接触がない状態に置かれた。接種後のブタの症状は過去の感染試験と同等であった。また、EBOVはすべてのサルに伝播し、サルの血液及びスワブからウイルスが検出された。これは、実験的に異種間でのウイルス伝播を確認した最初の報告である。
84	エボラ出血熱	WHO GAR 2012 8 Oct.	コンゴ民主共和国におけるエボラ出血熱の報告。WHOは、2012年10月7日時点で、コンゴ民主共和国内でエボラ出血熱が49例(うち、確定例31例、疑い例18例)報告されていると発表した。このうち24例が既に死亡している(うち、確定例10例、疑い例14例)。これらの症例は、Orientale州Haut-Uele地区のIsiro及びViadanaで報告されている。エボラウイルスのヒト-ヒト感染は、主に血液又は体液の直接接触に関連するものであり、適切な感染防御措置が講じられていない場合の医療従事者への感染が報告されている。
85	ハンタウイルス	http://www.timesunion.com/news/article/Case-of-hantavirus-in-Adirondacks-confirmed-3973769.php	米国におけるハンタウイルス感染の報告。ニューヨーク州北部のアディロンダック山地でマウスの咬傷を受けた男性1例がハンタウイルスに感染したことが確認された。男性は既に回復している。男性は2012年10月初めに感染を疑われ、その後、疾病予防管理センターにおいて検査が実施され、10月17日にハンタウイルス感染が確定した。
86	狂犬病	ProMED-mail 20120729.1219483	米国における狂犬病の報告。アイオワ州において、狂犬病のコウモリが確認され、当該コウモリに咬まれた10歳の小児が治療を受けている。保健当局は、当該コウモリに触れている場合、急いで医師に相談するよう注意を呼び掛けている。その他、バーモント州では狂犬病のネコがヒトとイヌに襲いかかった事例が確認されている。また、テキサス州の農場において狂犬病検査陽性のウシ1頭が確認されている。
87	口蹄疫	臨床とウイルス 40(2012)27	日本における口蹄疫の発生から終息までの経過報告。2010年4月20日:宮崎県都農町の和牛繁殖農家で口蹄疫1例目を確認。4月21日:宮崎県川南町の2戸の農場にて発生。4月25・26日:大型和牛飼育農場にて発生。4月28日:県畜産試験場の養豚施設にて発生。5月1日:自衛隊に災害派遣要請するもさらに感染拡大。5月17・18日:政府は対策本部を設置し、宮崎県知事は非常事態宣言を表明。5月22日:ワクチン接種を開始。5日間で約126,000頭にワクチンを接種。8月27日:家畜排泄物の堆肥化処理等による殺ウイルス措置、清浄性確認検査を行い、終息宣言。今回の口蹄疫はO型のSEAタイプであり、2000年に発生が確認されたME-SAタイプとは抗原性が異なっていた。
88	パルボウイルス	Br J Haematol. 159(2012)385-393	パルボウイルスに関する最近の知見をまとめた報告。現在実施可能なウイルス不活化の方法は、パルボウイルスB19やプリオンを除去することができず、血液製剤を介したこれらの伝播について理論的な懸念が残されている。本報告は最近の知見をまとめた総説であり、近年見出されたパルボウイルスB19の新たな遺伝子型やヒトパルボウイルス4(PARV4)に関する知見のほか、パルボウイルスにより引き起こされる臨床症状、並びに血液製剤の製造所で現在行われている検査手法などが提示されている。
89	パルボウイルス	Chinese journal of Biologicals. 25(2012)1043-1048	中国の原料血漿及び血液製剤中のヒトパルボウイルスB19陽性率に関する報告。中国の血液製剤製造会社3社より6505の個人血漿検体及び108の原料血漿プールを入手し、蛍光定量PCRを用いてB19-DNAの検出を行った。その結果、陽性と判断された検体数は個人血漿で6(0.092%)、血漿プールで89(82.41%)であった。また、中国企業の静注用免疫グロブリン製剤84ロット、人フィブリノゲン製剤24ロット、血液凝固第Ⅷ因子製剤56ロット及び人プロトロンビン複合体33ロットに対しても同様の検査を行ったところ、陽性数はそれぞれ0(0%)、11(45.83%)、38(67.86%)及び26(78.79%)であった。これらの陽性率は、海外文献で以前報告された数値よりわずかに低かった。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
90	ウイルス感染	CCDR Weekly. Sep 28, 2012	サウジアラビアにおける新規コロナウイルス感染の報告。49歳のカタール国籍の男性がサウジアラビアへの旅行から帰国後、急性の呼吸器症候群を発症した。患者は2012年9月にカタールのICUへ入院した後に英国へ緊急搬送され、英国健康保護局 (HPA)での検査により新規のコロナウイルスへの感染が判明した。遺伝子配列の解析の結果、2012年始めに死亡した60歳のサウジアラビア人の肺組織から得られたウイルスと99.5%の相同性が示された。
91	ウイルス感染	Health Protection Agency Genetic sequence information for scientists about the novel coronavirus 2012	新規コロナウイルスの遺伝子配列に関する報告。2012年に英国で分離された新規コロナウイルスの全ゲノムの遺伝子配列が決定され、系統解析が行われた。その結果、この新規コロナウイルスは過去に香港のコウモリから検出されたコロナウイルスと最も近縁であることがわかった。
92	ウイルス感染	IDWR. 2012年第37週	サウジアラビアにおける新規コロナウイルス感染者の報告。49歳のカタール国籍の男性がサウジアラビアへの旅行から帰国後、急性の呼吸器症候群を発症した。患者は2012年9月にカタールのICUへ入院した後に英国へ緊急搬送され、英国健康保護局 (HPA)での検査により新規のコロナウイルスへの感染が判明した。遺伝子配列の解析の結果、2012年始めに死亡した60歳のサウジアラビア人の肺組織から得られたウイルスと99.5%の相同性が示された。
93	ウイルス感染	mBiol. 3(2012)e00515-12	中東で発見された新規のコロナウイルス (hCoV-EMC)に関する研究報告。2012年に中東で発見されたhCoV-EMCは、2002年から2003年に流行したSARSコロナウイルスと近縁のウイルスであり、腎障害を合併するなど類似の臨床症状を示す。今回の研究では、SARSウイルスの宿主レセプターとして知られるACE2という膜分子は、hCoV-EMCの細胞への感染に必要なではないことがわかった。また、hCoV-EMCは複数種のコウモリの細胞に感染性を示した。hCoV-EMCの宿主レセプターはコウモリからヒトまで保存された分子であり、異種間での伝播が起こりやすいことが推察された。
94	ウイルス感染	N Eng J Med. 367(2012)1814-1820	サウジアラビアにおける新規コロナウイルス感染の報告。進行性の呼吸不全及び腎不全のために死亡したサウジアラビア人の60歳男性から、新規のコロナウイルス (HCoV-EMC)が分離された。HCoV-EMCは培養細胞内で急速に複製し、細胞円形化などの細胞変性作用を示した。HCoV-EMCは、βコロナウイルスのC系統に属する初めてのヒトコロナウイルスであり、コウモリから分離されたコロナウイルス (HKU4及びHKU5)と最も近縁であった。患者の臨床像は、2003年に流行した重症急性呼吸器症候群 (SARS)の重症例と類似していた。
95	ウイルス感染	NHS choice/Health News. Sep 25, 2012	サウジアラビアにおける新規コロナウイルス感染の報告。英国健康保護局 (HPA)は、新たに1例の新規コロナウイルス感染を確認したことを発表した。カタール国籍の男性は、サウジアラビアへの旅行から帰国後、急性の呼吸器症候群を発症した。患者は2012年9月にカタールのICUへ入院した後に英国へ緊急搬送され、HPAの検査により新規のコロナウイルスへの感染が判明した。さらに、今回の患者から分離されたウイルスは、すでに急性呼吸器障害で死亡したサウジアラビア人男性から分離されたウイルスと同一であった。
96	ウイルス感染	ProMED-mail 20120920.1302733	サウジアラビアにおける新規コロナウイルス (HCoV-EMC)感染の報告。急性腎不全を伴う肺炎を呈した60歳男性患者からHCoV-EMCが分離された。HCoV-EMCは培養細胞内で急速に複製し、細胞円形化などの細胞変性作用を示した。また、RNAIに関する検討の結果、本ウイルスはβコロナウイルス属の新種であり、コウモリコロナウイルスと近縁であることが確認された。
97	ウイルス感染	ProMED-mail 20120923.1305931	サウジアラビアにおける新規コロナウイルス感染に関する報告。サウジアラビア保健省 (MoH)は、新型コロナウイルスと診断された3例のうち、既に2例が死亡し、3例目は現在も治療が行われていることを公表した。1症例目はサウジアラビア人でジッダ市の病院で診断されたが、2及び3症例目はともに英国ロンドン市で診断された。また、MoHは、サウジアラビア国内又は海外からメッカ巡礼に向かう際には、政府推奨のワクチン接種を行い、手指消毒、人混みでのマスク着用などの必要な予防措置を講ずるよう推奨した。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
98	ウイルス感染	ProMED-mail 20121104.1391285	サウジアラビアにおける新規コロナウイルス感染の報告。サウジアラビア保健省は、2012年11月4日、男性患者1例が新型コロナウイルスに起因する肺炎であることを発表した。患者は、これまでに報告された2症例とは疫学的な関連性はなかった。家族及び医療従事者を含む接触者の調査を実施したが、現時点で二次症例は確認されておらず、追跡調査中である。発症の1週間前、患者は農場を訪問しており、新型コロナウイルスによる呼吸器疾患と確認された既報告の2例中1例と同様に、発症1～2週間前に家畜との接触歴があることは注目に値する。現在までの調査により、既報告の2例との濃厚接触（医療従事者及びその他の接触者を含む）による新型コロナウイルス感染の証拠はなく、ヒト-ヒト感染は確認されていない。
99	ウイルス感染	ProMED-mail 20121114.1409556	新規のコロナウイルスの遺伝子配列に関する報告。2012年に英国の感染者から分離された新規のコロナウイルスについて全ゲノムの遺伝子配列が決定され、England 1_CoVと命名された。England 1_CoVは2008年にオランダで解析された別の新規コロナウイルス（EMC 2012, JX869059）と高い類似性を示した。さらに、系統解析を行った結果、England 1_CoVはジェノタイプ2cに該当し、過去に香港においてコウモリから分離されたウイルスと最も近縁であることが判明した。
100	ウイルス感染	ProMED-mail 20121211.1446670	中東で流行している新規コロナウイルスに関する報告。2012年4月以降、ヨルダン、サウジアラビア、カタールで流行（少なくとも感染9例、うち5例が死亡）を引き起こしたコロナウイルスは、hCoV-EMC(human coronavirus Erasmus Medical Centre)と命名された。研究の結果、hCoV-EMCはSARSウイルスとは異なる細胞受容体を介することが明らかとされ、さらに、hCoV-EMCはコウモリ、ブタ、ヒトの細胞で増殖することが明らかとされた。hCoV-EMCが多種類の動物に感染するならば、流行の収束を妨げ、周期的にヒトへの感染が続く可能性がある。
101	ウイルス感染	WHO/GAR 30 November, 2012	ヨルダンにおける新規のコロナウイルスに関する報告。2012年11月28日までにWHOに報告された新型コロナウイルスの確定例は9例（サウジアラビア5例、ヨルダン2例、カタール2例）となった。ヨルダンの2例は、2012年4月に発症していたが、新型コロナウイルスは発見されておらず、特異的な検査は実施されていなかった。また、当時、ヨルダン国内では重度の呼吸器感染症が多数発生していた。2012年10月に新型コロナウイルスが発見された後、保存されていた検体がWHOに送付され、この2例が新型コロナウイルスに感染していたことが確認された。
102	ウイルス感染	WHO/GAR Background and summary of novel coronavirus infection-as of 30 November 2012	サウジアラビア、カタール及びヨルダンにおける新規のコロナウイルス感染の報告。2012年11月30日、世界保健機関（WHO）は、過去2カ月間に、サウジアラビア、カタール及びヨルダンにおいて計9例の新型コロナウイルス感染の確定例があり、そのうち5例が死亡していることを明らかにした。サウジアラビアの5例のうち、3例は家族で同一の家屋で暮らしていたが、残りの2例は疫学的な関連性がなかった。カタールの2例は互いに関連性がなく、既に回復している。ヨルダンの2例は2012年4月に発症したものであるが、既に2例とも死亡している。発生地点が複数（サウジアラビア、ヨルダン）あることについて、限定的なヒト-ヒト感染によるものか、あるいは共通の感染源によるものか、現在の知見から断定はできないとされている。
103	ウイルス感染	http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000002u1pm.html	山口県における重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関する報告。厚生労働省は、新規のフレボウイルス属ウイルスによるSFTSが国内で初めて確認されたことを発表した。患者に最近の海外渡航歴はなく、昨秋に死亡している。SFTSは、2009年頃より中国で発生が報告され、2011年に初めて原因ウイルスが特定された、ダニ媒介性疾患である。厚生労働省はSFTSに関して都道府県等に情報提供を行うとともに、医療機関に対して、同様の患者を診察した際は情報提供を行うよう、自治体を通じて協力を要請した。厚生労働省は、本疾患に関する情報収集や調査研究を実施している。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
104	ウイルス感染	http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000002xcqj-att/2r985000002xcs0.pdf	日本における重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)に関する報告。厚生労働省は、新規のフレボウイルス属ウイルスによるSFTSが国内で初めて山口県で確認されたことを発表した。患者に最近の海外渡航歴はなく、昨秋に死亡している。SFTSは、2009年頃より中国で発生が報告され、2011年に初めて原因ウイルスが特定された。ダニ媒介性疾患である。厚生労働省はSFTSに関して都道府県等に情報提供を行うとともに、医療機関に対して、同様の患者を診察した際は情報提供を行うよう、自治体を通じて協力を要請した。厚生労働省は、本疾患に関する情報収集や調査研究を実施している。
105	ウイルス感染	PLOS Pathogens. 8(2012)1-14	コンゴ民主共和国における新型ラブドウイルス (BASV) 感染による急性出血熱の報告。コンゴ民主共和国において、2009年に3例の急性出血熱が確認されている。患者は、突然の発症、高熱、吐血及び血性下痢を特徴とし、3症例中2例は3日以内に死亡した。BASVは、唯一の生存者の血清サンプルから検出され、血液中に100万コピー/mL以上の濃度で存在していた。BASVの98.2%の遺伝子配列が決定されたが、BASVのアミノ酸配列は他のどのラブドウイルスとも相同性が低かった。また、唯一の生存者に加え、看護した看護師においても高レベルの抗BASV抗体が認められ、ヒト-ヒト接触で伝播する可能性があることが示された。
106	ウイルス感染	ProMED-mail 20120830.1274007	米国における新種のハートランドウイルス及びフレボウイルスに関する報告。2009年、ミズーリ州の男性2人が発熱、疲労、血球数低下、肝酵素上昇を発症し入院した。2例ともダニの咬傷を受けていた。1例目は当時57歳だった農夫で、現在も「悪化している」と訴える。エーリキア症の症状を有し、ダニによる細菌感染の可能性もあったが、農夫の血液を培養しても細菌は検出されなかった。CDCは遺伝子解析を行い、ブニヤウイルス科の完全に新しいウイルスを発見した。このウイルスはこれまで検出されたことがなく、世界で初めてであるという。ブニヤウイルス科にはハンタウイルスや致死性の高いクリミア・コンゴ熱ウイルスも含まれる。本ウイルスは発見されたハートランドにちなんでハートランドウイルスと呼ばれる。これとは独立して、ミズーリ州北西部で2名の男性が発熱、疲労、下痢、血小板減少、白血球減少により入院した。患者は発症の5-7日前にダニに咬まれていた。解析の結果、患者が感染したウイルスはブニヤウイルスに属する新規のフレボウイルスであることが判明した。
107	BSE	Emerging Infectious Diseases. 18(2012)2091-2092	牛海綿状脳症 (BSE) のウシの唾液から異常プリオンタンパク質 (PrP ^{Sc}) が検出されたことに関する報告。serial protein misfolding cyclic amplification (sPMCA) を用いて、BSEのウシ3頭から発症前後に採取された唾液サンプルを検討した。剖検時に採取されたサンプル及びBSEの臨床症状が初期のウシから採取されたサンプルからPrP ^{Sc} が検出された。また、増幅過程を3回繰り返すことにより、発症2ヶ月前に採取された唾液からもPrP ^{Sc} が検出された。BSE感染ウシの唾液、乳、血液及び脳脊髄液に感染性があるとの疫学的エビデンスは存在しないが、現在のデータからは、BSE感染ウシの体液や排泄物による感染リスクの可能性を排除することはできない。
108	BSE	http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000002qozq.html	ブラジルで発生した牛海綿状脳症 (BSE) に関連して、同国産牛肉の輸入手続きを停止したことに関する厚生労働省の報道発表。ブラジルでBSEの1例目が確認されたとの情報を受け、2012年12月8日、厚生労働省は同国産牛肉等(加工品を含む。)の輸入手続きを停止することとし、国内の検疫所等に通知した。なお、検疫所は、2004年7月以降、BSE非発生国であっても特定危険部位を含む食品は輸入しないよう輸入者を指導している。
109	BSE	OIE 2012 July 12	米国におけるBSE: 発生日 2012年4月19日、最初の確定日 2012年4月23日、報告日 2012年7月12日、原因 プリオン非定型BSE。2012年4月19日にカリフォルニアでBSEが発生したことに関する最終報告。免疫化学的検査とウェスタンブロット検査により、ウシが摂食した飼料と感染は関連がないことと、非常に稀な非定型BSEであることが示された。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
110	BSE	OIE 2012 Dec 07	ブラジルで発生したBSEに関する報告。ブラジルSertanopolis自治体において、四肢を硬直させ横臥状態のウシが発見され、その後死亡が確認された。当該ウシは肉牛繁殖用で、死亡時の年齢は13歳であった。ブラジル国内の研究所で実施された病理組織学的検査では、牛海綿状脳症は陰性であるとの結果であった。しかし、2012年6月15日、ブラジル国内の別の研究施設で実施された免疫組織化学的検査では、牛海綿状脳症が陽性であるとの結果が得られた。さらに、同試料はイギリスにある国際獣疫事務局(OIE)の付託研究施設にも送付され、2012年12月6日、免疫組織化学的検査により牛海綿状脳症陽性であると確認された。当該ウシのサンプルは、OIE陸生動物衛生規約の第11.5.22によると「死亡動物」及び「9歳以上」の分類に属しており、この分類のために、サンプルを診断する優先順位が低くなり、病理組織学的検査から免疫組織化学的検査の実施までに間隔が生じてしまった。今回の牛海綿状脳症は、ブラジル国内における最初の症例であったが、当該ウシの死亡はBSEが原因ではなく、高齢のウシにおけるBSE非定形型症例であることが示唆されている。
111	BSE	OIE 2012 Dec 18	ブラジルで発生したBSEに関する報告。ブラジルSertanopolis自治体において、四肢を硬直させ横臥状態のウシが発見され、その後死亡が確認された。当該ウシは肉牛繁殖用で、死亡時の年齢は13歳であった。ブラジル国内の研究所で実施された病理組織学的検査では、牛海綿状脳症は陰性であるとの結果であった。しかし、2012年6月15日、ブラジル国内の別の研究施設で実施された免疫組織化学的検査では、牛海綿状脳症が陽性であるとの結果が得られた。さらに、同試料はイギリスにある国際獣疫事務局(OIE)の付託研究施設にも送付され、2012年12月6日、免疫組織化学的検査により牛海綿状脳症陽性であると確認された。当該ウシのサンプルは、OIE陸生動物衛生規約の第11.5.22によると「死亡動物」及び「9歳以上」の分類に属しており、この分類のために、サンプルを診断する優先順位が低くなり、病理組織学的検査から免疫組織化学的検査の実施までに間隔が生じてしまった。今回の牛海綿状脳症は、ブラジル国内における最初の症例であったが、当該ウシの死亡はBSEが原因ではなく、高齢のウシにおけるBSE非定形型症例であることが示唆されている。
112	BSE	ProMED-mail 20120805.1228663	米国における牛海綿状脳症の報告。2012年4月、カリフォルニア州において牛海綿状脳症のウシ1頭が確認された。その後、米国農務省は本件に関する調査を続け、2012年8月、当該ウシは単独の発症例であり、食料供給を脅かすものではないことを確認したと発表した。
113	BSE	ProMED-mail 20121208.1443015	ブラジルで発生したBSEに関する報告。ブラジルSertanopolis自治体において、四肢を硬直させ横臥状態のウシが発見され、その後死亡が確認された。当該ウシは肉牛繁殖用で、死亡時の年齢は13歳であった。ブラジル国内の研究所で実施された病理組織学的検査では、牛海綿状脳症は陰性であるとの結果であった。しかし、2012年6月15日、ブラジル国内の別の研究施設で実施された免疫組織化学的検査では、牛海綿状脳症が陽性であるとの結果が得られた。さらに、同試料はイギリスにある国際獣疫事務局の付託研究施設にも送付され、2012年12月6日、免疫組織化学的検査により牛海綿状脳症陽性であると確認された。今回の牛海綿状脳症は、ブラジル国内における最初の症例であった。
114	BSE	PLOS ONE. 7(2012)e45774	アメリカガラスの消化器官を経由して、伝達性海綿状脳症(TSE)に係る異常プリオンタンパク質(PrP ^{Sc})が感染性を維持したまま移行する可能性を示した研究報告。PrP ^{Sc} を接種されスクレイピーの症状を示したマウスから脳組織を採取し、その脳ホモジネートをアメリカガラスに経口投与した。その後、アメリカガラスから採取された糞便抽出物をマウスに腹腔内投与した。181~231日後、試験群の複数のマウスにおいてマウス・スクレイピーの臨床症状が観察され、その後の検査によりPrP ^{Sc} の陽性が確認された。これは、鳥類の腐肉性動物(例えば、アメリカガラス)の消化器官を経由して、感染性プリオンタンパク質が移行することを示した初めての報告である。
115	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion. 52(2012)2285-2293	赤血球のプリオンろ過の費用対効果に関する報告。変異型クロイツフェルトヤコブ病(vCJD)の危険を低減するため、プリオンを取り除くフィルター(The P-Capt filter)が開発され、アイルランドにおいてプリオンろ過を実行することについての費用効果が評価された。その結果、プリオンろ過を行わなければ、10年間に2人が赤血球輸注によるvCJDを発症し、失われる寿命は18.5年と推定された。また、プリオンろ過の実装にかかる費用は68.2百万ユーロで、寿命1年あたりのコストは3.7百万ユーロであると推定された。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
116	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sang. 2012;11:1-10	血漿分画製剤の製造工程による異常型プリオンの除去効果に関する報告。英国において、様々な血漿分画製剤の製造工程の小規模実験系を構築して、中間原料にスクレイピー脳抽出物をスパイクし、プロセスを実施した。工程前後の検体についてウェスタンブロットにより異常型プリオン蛋白質 (PrP ^{Sc}) を測定し、スクレイピー原因物質の除去量を検討した。その結果、製造工程の多くはプリオンの除去に効果を示し、特にエタノール分画、デブスろ過、イオン交換及び銅キレートアフィニティクロマトグラフ工程が効果的であることが示された。平均孔径15、20nmのウイルス除去フィルターは3Logの除去効果が確認された。個々の製品の合計除去効果は7~14Logの範囲であったが、血液凝固第Ⅷ因子製剤については3Logであった。
117	レンサ球菌感染	ProMED-mail 20120922.1304708	ベトナムにおけるレンサ球菌感染の報告。ハノイ在住の51歳男性が、ブタ由来のレンサ球菌 <i>Streptococcus suis</i> に感染後、敗血症性ショックで死亡した。男性は生のブタの血スープを飲食した後に昏睡状態に陥り、皮下出血を起こしていた。
118	レンサ球菌感染	ProMED-mail 20130123.1510728	ベトナムにおけるレンサ球菌感染の報告。De Nang市総合病院は、Quan Nam省の中部の2例及びその近隣のQuang Ngai省の1例について、 <i>Streptococcus suis</i> への感染を確認し、治療を行ったと報告した。3例とも、発症前に汚染された豚肉又はブラッドソーセージを摂取していたことが確認されている。旧正月(2月第2週)に向けて豚肉の消費が増えることから、Da Nang市の保健当局は感染が拡大するおそれがあると警告している。また、ヒトへの感染を防ぐため、当局は屠場事務所に対して、感染したブタを見つけた場合は殺処分するよう要請した。
119	炭疽	ProMED-mail 20120726.1216504	カナダにおける炭疽の報告。カナダ食品検査庁(CFIA)は、サスカチュワン州Kinistinoの農場においてウシ(1群)の炭疽が確認されたことを発表した。カナダ草原地帯の土壌中には炭疽菌の芽胞が存在しており、カナダ西部での炭疽は決して稀ではない。CFIAは、地方行政当局及び企業と協力し、炭疽のリスクに対処している。
120	炭疽	ProMED-mail 20120727.1217583	カナダにおける炭疽の報告。炭疽が発生したサスカチュワン州Kinistinoは、2006年にも炭疽の発生が確認されている。ウシの炭疽感染が確認された。これまでに2頭のウシについて炭疽菌の感染が確認され、焼却処理されている。2012年4月以降の降水量は例年の155%であり、ここ数週間で気温が上昇し始めていた。
121	炭疽	ProMED-mail 20120809.1235580	カナダにおける炭疽の報告。サスカチュワン州Melfortの農場で新たなウシの炭疽が確認された。近隣のKinistinoの農場においてウシの炭疽が確認されたばかりである。カナダ食品検査庁は農場関係者に対して、取引先にアウトブレイクの発生を知らせること、また、ワクチン接種が済んでいない家畜に対してワクチンを接種するように呼びかけた。
122	炭疽	ProMED-mail 20120809.1236375	米国における炭疽の報告。コロラド州農務当局は、ローガン郡の農場で死亡したウシ1頭が炭疽に感染していたことが確認されたと発表した。過去数日間に同じ農場で死亡した約50頭のウシも炭疽に感染していた疑いがある。また、死亡ウシと接触していた獣医及び牧場労働者の計7名について、臨床的症狀は認められていない。
123	炭疽	ProMED-mail 20120812.1240220	米国における炭疽の報告。コロラド州農務当局は、ローガン郡で発生した炭疽のアウトブレイクにより60頭近くのウシが死亡したが、農場は隔離され封じ込めは成功したと確信できることを発表した。近隣の農場のウシに対してはワクチン接種が予定されている。また、炭疽が確認されるより以前から、ローガン郡から出荷されたウシはなく、食品流通への影響はないとされた。
124	炭疽	ProMED-mail 20120815.1246088	米国における炭疽の報告。コロラド州ローガン郡で最初に炭疽が確認された農場と隣接する2か所の農場において、新たに1頭ずつ(計2頭)のウシの炭疽が確認された。隣接するすべての農場においてワクチン接種はすでに実施されていたが、2度目の接種から7-10日経過しないと十分な予防効果は得られないことが知られている。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
125	炭疽	ProMED-mail 20120824.1262035	米国における炭疽の報告。コロラド州獣医当局は、2012年8月22日、ローガン郡でウシの炭疽が確認された農場と隣接する農場で、新たに1頭のウシの炭疽が確認されたことを発表した。これで、2012年8月8日以降のアウトブレイクで炭疽が確認された農場は、計4か所となる。隣接するすべての農場においてワクチン接種は既に実施されていたが、2度目の接種から7-10日経過しないと十分な予防効果は得られないことが知られている。また、死亡したウシを処分する場合、焼却して芽胞を殺滅した後、土中に深く埋めることが最も望ましいと考えられている。
126	炭疽	ProMED-mail 20120901.1276824	米国における炭疽の報告。オレゴン州当局は、クラマス郡の農場で死亡したウシ1頭が炭疽と確認されたことを明らかにした。同じ群れの2頭のウシの死亡も炭疽と関連していることが疑われている。オレゴン州では50年以上、炭疽の発生は確認されていない。
127	炭疽	ProMED-mail 20121003.1322160	米国における炭疽の報告。ノースダコタ州立大学で行われた検査の結果、スターク郡のウシ1頭において炭疽が確認された。生産者は炭疽への予防措置を講ずることが推奨され、ワクチンの入手経路について州当局の獣医学専門家から周知された。
128	炭疽	ProMED-mail 20121007.1329339	米国における炭疽の報告。コロラド州農務当局は、ローガン郡で発生した炭疽のアウトブレイクに関して、すべての隔離措置が終了したことを明らかにした。コロラド州では30年ぶりの炭疽の発生であり、臨床症状に関する知識が不足していたこともあり、炭疽の確定までに時間を要した。
129	結核	ProMED-mail 20120629.118446	米国におけるウシの結核感染の報告。ミシガン州農務当局によると、州内の農業祭において実施された通常の細菌検査の結果、乳牛1頭が結核に感染していることが判明した。感染したウシのいた群れは隔離され、引き続き調査が実施されている。
130	大腸菌性胃腸炎	第61回日本感染症学会東日本地方会学術集会、第59回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会シンポジウム26	志賀毒素及びインチミンの遺伝子を保有する大腸菌の家畜等における保菌状況と分離株に関する研究報告。日本国内の野鳥、ブタ、乳牛、肉牛から採取された検体を用いて、志賀毒素遺伝子 (<i>stx</i>) 及びインチミン遺伝子 (<i>eae</i>) を保有する大腸菌の保菌状況等について検討を行った。 <i>stx</i> 又は <i>eae</i> を保有する大腸菌は、O群血清型として各動物から多数検出されたが、ヒトに病原性を示す8種のO群血清型とはほとんど一致しなかった。また、 <i>stx</i> 及び <i>eae</i> の両者を保有する大腸菌株の血清型は限定的であり、ヒトに病原性を示す血清型に該当するものが多かった。
131	大腸菌性胃腸炎	日本獣医師会雑誌. 65(2012)689-693	子ウシにおける腸管外病原性大腸菌感染症 (ExPEC) 並びに分離株の病原関連遺伝子の検索についての報告。ExPECの子ウシ6頭において、起立不能、眼球白濁及び呼吸器症状の臨床症状が認められ、カタル性気管支肺炎、肝臓の多発巣状壊死、小葉中心性肝細胞壊死、化膿性髄膜炎、播種性血管内凝固等が観察された。分離されたExPEC株の病原遺伝子をPCR法により検討したところ、毒素 (<i>cnf2</i> , <i>cdtIII</i>)、付着因子 (<i>F17A</i> , <i>afa-8</i>) 及び鉄取込能 (<i>iutA</i> , <i>fyuA</i> , <i>irp1</i> , <i>irp2</i>) に関連する遺伝子が検出された。これらの遺伝子を有する大腸菌は、子ウシExPECに関連する可能性がある。
132	サルモネラ症	日本獣医師会雑誌. 65(2012)757-761	飼養衛生から見た乳牛のサルモネラ症発生要因に関する考察。北海道内の酪農場169戸を対象に、過去8年間のサルモネラ症発生状況と乳牛飼養衛生管理方式との関連を疫学的に解析した。サルモネラ症は8~10月に多発し、サルモネラ症発生農場では、フリーストール飼養率が非発生農場に比べて有意に高く、養頭数も有意に多かった。また、サルモネラ症発生農場において、泌乳前期のウシは他の泌乳ステージのウシに比べて菌検出率が高かった。さらに、サルモネラ症発生農場における泌乳初期牛 (分娩後31~60日) の乳蛋白質率が2.8%未満のウシは44.0%と、非発生農場の29.3%よりも有意に高かった。これらの結果は、頭数規模拡大に伴う集約的な飼養形態に加え、分娩後に乳蛋白質が低下するようなルーメン発酵の減退が酪農場でのサルモネラ症発生の要因となっている可能性を示している。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
133	ブルセラ病	ProMED-mail 20121214.1451750	米国における野生ブタのブルセラ病及び仮性狂犬病感染に関する報告。米国野生生物部は、Felsenthal野生生物保護区の野生ブタ46頭を検査したところ、10頭がブルセラ病に、16頭が仮性狂犬病に感染していたことを公表した。保護区の生物学者は、保護区内で猫を行う場合、動物に触れる際には適切に対処する必要があると注意を呼びかけている。
134	細菌感染	第65回日本細菌学会関西支部総会	農場及び食鳥処理場におけるカンピロバクターの汚染実態調査。農場HACCP実施農場及び未実施農場における初生雛から出荷までの鶏の体・製品を検体とし、指針に従って定量・定性を行い、PCR報を用いて菌の同定を行った。その結果、管内地域に同じ由来株が浸潤していることや農場内で汚染されること、農場HACCP実施農場は未実施農場に比べて衛生的に優位なこと、製品の汚染状況は盲腸内菌数に加えて処理の順番や処理を行う時間に左右されること、が示された。本菌の汚染低減には、家畜保健衛生所との情報共有を進め、農場における保菌状況を把握し、それをもとに処理場での処理順を変更するなどの措置を行うことが重要である。
135	細菌感染	http://www.societyinfo.jp/godo2012/abstracts/ippan/P-015-016.pdf	日本におけるカンピロバクター感染の報告。慢性骨髄性白血病の男性患者1例において、3日間続く食欲不振、倦怠感及び発熱が発現し、検査の結果、 <i>Campylobacter</i> 属による菌血症と診断された。その後、16SrRNAを用いたPCR法により、 <i>C. insulaenigrae</i> 感染と確認された。 <i>C. insulaenigrae</i> がヒトへ感染する例は非常に稀であるが、易感染状態の患者においては感染しうることが示された。
136	細菌感染	Transfusion. 53(2013)181-186	米国におけるヒトアナプラズマ症感染の報告。急性胃腸出血により入院した64歳の患者に対し、5単位の保存前白血球除去赤血球の投与が行われ、患者は5日後に退院した。その2日後に患者は頭痛、発熱及び悪寒を発現して再度入院したところ、再入院5日目にヒトアナプラズマ症の症状である、桑実胚を含む多形核白血球が観察された。5人の供血者のうち1名から得られたサンプルは、PCR及び血清学的検査の両者において <i>Anaplasma phagocytophilum</i> に陽性を示し、この供血者は献血時にヒトアナプラズマ症に感染していたことが強く示唆された。白血球除去はヒトアナプラズマ症の感染リスクを軽減するが、すべての感染を阻止することはない。原因不明の発熱があるレシピエントではヒトアナプラズマ症への配慮が必要である。
137	アメリカ・トリパノソーマ症	血液製剤調査機構「Today's News 海外編」 2012年9月	米国における輸血によるトリパノソーマ感染の報告。ニューヨーク血液センターは、2007年4月から2011年までの <i>Trypanosoma cruzi</i> 感染に対する供血者スクリーニングの遡及調査結果から、輸血により <i>T. cruzi</i> に感染した可能性の高い2例を特定した。感染源とみられる供血者は、1984年から2007年までに16回供血しており、そこから製造された合計25の血液製剤が25人に投与されていた。
138	トキソプラズマ症	Vector-Borne and Zoonotic Diseases. 12(2012)654-656	中国におけるブタのトキソプラズマ血清陽性率に関する調査報告。2012年4月から12月までの間にチベット自治州ニンティ地区のチベットブタから合計427点の血清サンプルを採取し、修正凝集テスト(MAT)を用いてトキソプラズマに対する抗体の検査を実施した。その結果、97匹(22.72%)のブタにおいて、1:25以上のMAT抗体価で陽性であるとわかった。統計学的に有意な差ではなかったが、屠殺期にあるブタは、肥育ブタ、成長過程のブタ又は子ブタに比べて高い血清陽性率であった。本調査の結果は、チベットブタにおいてトキソプラズマが流行しており、この地域の公衆衛生に深刻な懸念があることを示している。
139	旋毛虫症	Foodborne pathogens and disease. 9(2012)536	ギリシャにおける旋毛虫症の報告。欧州では汚染された食肉からヒトへの旋毛虫感染を予防するため、 <i>Trichinella</i> 種の検出を目的とする規制を2005年から施行している。この規制に従って、ギリシャの国立寄生虫リファレンス研究所は、2009年の食用ブタ826,426検体(放牧ブタ2,892検体、野生イノシシ192検体を含む。)及び2010年の食用ブタ1,295,034検体(放牧ブタ4,159検体を含む。)について検査を実施した。その結果、2009年の検査では放牧ブタの2検体で陽性反応が確認された。そのうちの1検体では、家族5人が旋毛虫症の臨床症状を呈した事例と関連しており、放牧ブタの未加熱の放牧ブタの肉を摂取していた。2010年の検査では、放牧ブタ4,159検体で陽性反応が確認された。今回の研究から、ギリシャにおいて放牧ブタは <i>Trichinella</i> 種のリスクが高いといえる。